

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300165		
法人名	株式会社 ゆう悠		
事業所名	グループホームともに中斜里		
所在地	北海道斜里郡斜里町字中斜里23番地36		
自己評価作成日	令和2年1月27日	評価結果市町村受理日	令和2年3月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaiogokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0195300165-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は4月で4年目に入りました。毎日が笑顔で楽しく穏やかな会話が飛び交う、居心地の良い環境作りを心掛けています。日々理念を心に支援に取り組んでいます。自治会に加入し、地域行事に参加させていただいています。行事以外でも様子をに見に来て下さる会長様をはじめ自治会の方々の支援にも、とても感謝しています。風邪やインフルエンザ流行時には「みんな元気かい？風邪ひいてないかい？」と様子を見にきてくださいました。地域の方々に守られているので大変心強く思っております。斜里町で使っている新聞袋もいまだに大好評で毎日欠かさず制作しております。児童館・保育園の子供達との交流も毎年楽しみで毎回感動で目頭が熱くなって、又元気をもらっています。年6回の運営推進会議の場を借りて、情報交換を行っており、毎回貴重な意見を参考にさせて頂いております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年2月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームともに中斜里」は、知床連山や斜里岳の四季折々の景色が窓から見渡せる環境に建つ1ユニットの平屋作りの事業所である。地域交流が活発で町の敬老会やサロン会、自治会の体操指導や各種行事に積極的に参加し交流を持っており、地域内のグループホームや福祉施設と協力しながらサポート体制を整えている。事業所の花畑や畑の野菜の芽吹きと収穫を楽しみに水やりなどの作業を職員と共にしている。事業所の代表が訪問し利用者や職員に声をかけ話をしたり、看護職員が急変時に対応していることも利用者や職員の安心感につながっている。高校生のボランティアが利用者の話し相手になったり散歩に同行して交流を持っており、卒業後に職員として入職していることから利用者も安心できる馴染みの関係ができた職員採用となっている。事業所内は明るく清潔で、トイレは目につきやすいオレンジ色を配色したサインになっており、場所間違えのないよう工夫がみられる。理念は事業所内に掲示されており、パンフレット、勤務表、会議録等に掲載職員は日々の介護で常に意識して取り組んでいる。多くの利用者は活動的に居間に集まり、そろってカラオケを見ながら合唱をしたり、風船パレーなどのアクティビティに参加しており、理念にそった、ゆつくりと、安心して、皆でともに寄り添って暮らすことを実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目の触れるところに表示しており、毎月職員会議には、必ず確認を行っております。	理念を事業所の玄関と職員休憩室に掲示し、会議のレジメや勤務表に記載して意識している。職員は理念に沿った介護ができているかを確認しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、地域行事にも積極的に参加、花壇作りを自治会の方々と一緒に作業しております。毎週土曜日の「いきいき・かみかみ体操」の参加で交流を保っております。	中斜里の神社祭りや盆踊り、毎月開催されるみちくさサロンに参加したり、事業所前を子供神輿の休憩場所に提供するなど積極的に地域交流をしている。高校生のボランティアが話し相手になったり一緒に散歩をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の広報、2か月に1回 年6回の運営推進会議でも認知症について理解して頂く機会があり、質問を受け相談に乗る事ができます。気軽に相談できる場として利用して頂けるよう努力しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を行い、地域の方々、民生委員、町担当者、施設管理者、入居者様ご家族の参加があり、会議では現況報告・ヒヤリハット・事故報告を行い意見交換を行っております。お誕生会などご家族と食事をする機会を設け交流を図っております。	年6回の運営推進会議は、地域住民、町の福祉課職員、福祉施設の職員、利用者家族、事業所職員で構成されている。テーマは事業所の報告の他に誤薬の防止、研修会の報告、避難訓練の報告、身体拘束適正化の取り組みなど多様な内容である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に役場担当者も加わっている為、不明な点や状況報告を行い、理解、把握して頂いております。外部研修に出席時にも、意見交換、情報交換の機会を確保し、サービスの質の向上に努めております。	定期的な書類提出以外に事業所から利用者の困難事例を相談し、問題解決した事例もある。役場の歯科衛生士が事業所を訪れ、口腔ケアのアドバイスを受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束について学習を行い、周知を図っております。問題が生じた時にはすぐに対処法を話し合い、身体拘束を行わないように取り組んでいます。	「身体拘束等の適正化の指針」と「身体拘束その他の行動制限廃止マニュアル」があり、3か月ごとに身体拘束対策検討委員会を開催している。運営推進会議でも適正化委員会を話題にしている。4月5月6月に虐待を含めた内部研修を行っている。身体拘束につながる過剰な施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修にて虐待防止法について学習しております。マニュアルについてもすぐに、手に取れる所にあり、新入社員にも新入社員研修の場で虐待防止の徹底を学んでおります。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	重要事項にも明記し内部研修、新入社員研修で勉強会を実施し制度について学習しています。必要に応じ活用、支援できるよう取り組んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に御家族に見学に来ていただき説明を行っております。契約時には必ず2名以上で対応して費用等の重要事項を時間をかけ説明し理解を得ております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、気軽に投稿して頂けるよう配慮しております。施設主任が窓口となり対応しています。面会時にはご家族としっかりとコミュニケーションを図り思いを汲み取れるように努めております。他職員が聞いた時には速やかに報告、対応しております。	事業所の通信を計画作成担当者が毎月家族へ届けており、利用者の健康状況と生活状態の説明をしている。利用者の希望と家族の要望は焦点情報に記録しており、実現できるよう検討している。家族来訪時の意見は連絡ノートに記録し全職員が周知している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行う申し送り、連絡事項等で意見を集約し意見、提案を毎月行う職員会議で検討し、運営に反映させています。	職員は、年に1度代表者との面談で業務内容を相談したり目標や希望について話し合っており、職員の意見で効率的に介護ができるよう工夫がされている。会議やミーティングの内容は周知できるよう職員へ回覧をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は数時間でも職員と関わりを持ち相談やアドバイスを行っております。毎年12月には職員全員と面談を行い環境整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修ではその月の担当者が研修内容の勉強を行い、講師となり学習しています。又外部研修にも参加し学ぶ機会を持ち研修後復命書を回覧し、職員間で共有 意欲向上に繋げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームや特養の職員の方々に運営推進委員会をお願いしています。又地域ケア会議やケアマネ連協に参加し情報交換を行っております。町内のボランティア活動の「みちくさサロン」毎月15日に参加し入居者様、職員の交流の場となっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様、御家族に見学して頂いたり自宅に職員が訪問させていただき顔見知りになり不安な事や要望を傾聴し安心できる関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に御家族の話聞かせて頂き不安を解消できるようなサービス提供をする事と良い関係づくり、協力できる体制を保てるよう話し合い支えあう関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して利用できるよう本人及び御家族の要望をしっかりと把握し、安心してサービスを受けられるよう地域のケアマネと連携をとり様々な視点からのサービス提供に出来る限り対応していくよう支援方法を検討する事に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある「ともに安心して暮らす事の出来る居場所」を胸にご本人の出来る事、昔からやっていた事等を把握し、日常会話の中から様々な要望を話せる関係づくりや居場所づくりを実施するための職員配置の工夫を行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、御家族の思いを職員がうけとめ、御家族様を含めた行事の参加を実施し外泊、外出、通院等を含め御家族様の絆を大切に考えています。GHでの暮らしがわかるよう毎月通信を御家族様に発行しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や、馴染みの美容室、自治会の行事に参加し繋がりを大切にしています。入居後も良い関係づくりが継続できるよう支援を行っております。	カラオケ好きな利用者と歌ったり、お茶好きな利用者と抹茶を飲むなど大切にしてきた習慣を継続している。年賀状や暑中見舞いを書いて、職員と一緒に投函している。馴染みの美容室や法事、葬式などに家族と同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、自然な関係が築けるように職員が介入し、お互い、ともに支えあえる様な支援に努めております。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内で会った時には挨拶を交わし、良い関係性の保持に努めております。入院された時にはお見舞いに行かせていただいております。亡くなられた場合には葬儀に参列させていただき、これまでの関係を大切にしていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使い一人ひとりの思いや希望の把握に努めています。希望をお聞きすることができない入居者様におかれましてはそれまでの生活歴をお聞きし本人本位になるように努めています。	日々の会話で意向を確認し、毎月の利用者ケア会議でケース検討をして焦点情報に加えている。また、希望を計画作成担当者が短期目標のサービス計画に入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用しています。今までの生活歴がどのようなであったかわかるように職員間で情報を共有しています。何かわかりましたらその都度追記しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌やD4シートを使ってその日にあったことを職員みんながわかるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で定期的にサービス担当者会議を開いています。ケアについてや改善方法等話し合い介護計画を作成しています。ご家族様とはできるだけご自宅に訪問し希望やご意見を伺い介護計画を作成しています。	介護計画はサービス担当者会議を開催し、短期6か月長期1年で見直しをした後、家族の意向も確認して計画作成担当者が作成しているが、これで良いと思わず、もっとできることがあるとの向上心がみられる。	利用者の気持ちを介護計画に取り入れ、現状に満足せずケアサービスができるよう今後の取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	D4シートを使って日中や夜間帯も様子がわかるよう情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のニーズに柔軟な対応を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治体主催の「いきいき百歳体操」や道の駅で自治体主催の「みちくさサロン」を活用させて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は基本的にはかかりつけ医にご家族様に対応をお願いしています。その際日常の様子の情報提供を行っています。ご家族様が遠い方やご不在の時は職員が対応しています。又、清里クリニック様の往診も対応しています。	往診を受ける利用者と、通院の利用者が半々であるが、事業所の看護職員が医療機関との連絡を密にとり、利用者の健康管理をしている。受診後は細やかに医療情報に記録し、診察結果を家族へ伝えている。	

グループホームととも中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は24時間体制で連絡を取れることができ職員は不調者が出た場合はすぐ連絡を取れるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院のときには職員又は看護師が同行しています。町で作られた共通の「連絡シート」を使って状態を報告しています。退院時についてもそれまでの生活に変化がないか病院と連絡を取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化した場合や終末期についての指針を伺っております。また重度化された入居者様はいませんがそのような場合になったときのことを考え職員は内部研修をしています。	利用開始時に「重度化した場合における看取り介護(ターミナルケア)指針」を取り交し、「看取り介護に関する経過等」を準備し、医師、家族、事業所と看取りについて話し合い、終末期を迎えても穏やかな生活が送れるよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時にはマニュアルに沿って対応できるよう内部研修をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回避難訓練を行い安全に避難できるよう体制を整えています。地域住民様、運営推進委員様、ご家族様や町に御協力を頂いております。又消防署さんにも来ていただいて避難の時には安全に移動できる方法等ご指導いただいております。	夜間と日中想定で火災訓練をしており、避難場所も周知している。職員は救命訓練を受講し緊急時に対応することができる。大雨で川が氾濫しそうなどきや停電が長引きそうなどきは、町内から率先して駆けつけや応援の申し出がある。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を尊重して声掛けをしています。それまで生きてきた誇りやプライバシーを守るよう心掛けています。新しく入った職員には研修を行っています。	毎年必ず研修会を行い、高齢者に対する接遇や敬う気持ちで接することを接遇マニュアルで再確認している。職員は利用者には尊厳をまもり優しく話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者様が選択、決定ができるようお声をかけさせて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様がその日の希望に沿うように心掛けています。定期的な外出等では職員配置に気を付け安全に外出ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に行っています。好きな化粧品を買いに行ったり、行けない場合は職員が代理で買ってきます。洗面所には石鹸やブラシを置いています。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや食器洗いを職員と一緒にしています。食事の前には嚥下体操を行いムセや誤嚥にならないよう予防策をとっています。全員で外食を楽しめるよう支援しています。	調理職員の献立で、隔日に新鮮な食材を購入している。誕生日には職員の手作りケーキや、事前に食べたいものを聞き取りリクエスト食事会としている。年末の蕎麦打ちも好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分摂取量を記録しています。自力で食べられない入居者様については食べるペースにあわせ職員が介助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お食事後は一人ひとりにお声をかけさせてもらい口腔ケアに気を配っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣の把握に努めています。排泄が思うようにいかず気持ちが不安定になる入居者様におかれましてはパットやリハビリパンツを使い気持ちよく安心して過ごして頂けるよう支援しています。また羞恥心が起きないように入居者様全員にお声をかけさせて頂いています。	排泄面で自立している割合も多いが全員の排泄記録と水分摂取量の記録をとり、排便がスムーズになるよう腹部マッサージをして改善している。3名の居室にポータブルトイレを置き、夜間帯の失敗を軽減するよう利用者に沿った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し水分を摂ってもらえるよう心掛けています。必要に応じて看護師指示のもと下剤の調整も行っています。適度な運動も効果的である為、廊下歩行運動やいきいき百歳体操を行ったり朝はテレビ体操をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日の設定はありますがその日の体調や気分に応じて変更する時もあります。その場合は必ずご本人様と相談させて頂きます。	日に4名が午前と午後の時間に入浴をしている。入浴が苦手な利用者には無理強いをせず時間を置いて声かけしたり翌日に変更するなど、本人の意思で気分よく入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動してもらい夜は寝てもらおうといった基本的な生活習慣を大切にしています。夜トイレが気になる入居者様につきましては夜間のみポータブルトイレを設置しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の使用状況は個人記録に添付し職員がいつでも確認できるようになっています。確実に服薬できるよう個別で薬を持って行きしっかりと飲んだかを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握しやりたいことができるよう支援しています。お茶の先生でいらした方にはお茶がたてるよう準備をしたり入居者様と職員で作る新聞袋は町のスーパーに置いてもらい町民が使ってくれています。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や外出支援を行っています。公民館に体操に出掛けたり歌や踊りの催し物を見学しに出かけたりしています。道の駅のサロンでは顔なじみになり他の施設さんとの交流の場にもなっています。	散歩で近隣を歩いているほか、道の駅のサロン会や、町の婦人部で開催しているふれあいサロン、公民館のイキイキ百歳体操に参加して交流をしている。芝桜見学、産業まつり、町民文化祭、神社祭り と外出の機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に所持金は施設で保管させてもらっています。買い物の時に何か希望はないかお聞きしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様に暑中お見舞いのはがきや年賀状のはがきを書いてもらっています。手が震えて書けない入居者様には職員が代筆をしています。又、お中元等届いた入居者様にはお礼の電話をさせてもらい入居者様から直接お話ができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は温度管理をし快適に過ごしてもらえるよう気を付けてます。トイレがわかりやすいよう色で区別しています。居室の扉も静かに開閉ができて転倒の心配が少ない吊り戸にしています。広い窓からは景色を見て食事してもらおうとレースのカーテンは開いていることが多いです。	利用者は食事以外に居間で過ごす時間が多く、利用者同士カラオケ、合唱、ゲームをしながら職員と談笑して過ごしている。ほぼ全員が居間に揃って家族が集まっている様子である。利用者との共同作業で掃除がなされ綺麗な共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではテーブルの位置を移動したりソファの位置を変えたりして落ち着ける空間を作り居心地がいい場所ができるよう工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた家具や使い慣れた小物類をいたり観葉植物や写真を飾る等、ご本人の希望を聞いています。又、安全に移動できるよう部屋の模様替えをしています。	仏壇、冷蔵庫、鏡台、鉢植えや使い慣れた物品を自由に配置し昔作った趣味の作品を飾るなど、心落ち着く我が家としての居室になっている。窓からは壮大な景色が見渡せ穏やかに暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は広い空間で廊下にはほぼ手すりがついています。床はバリアフリーになっていて歩行器や車いす移動時も安全な床になっています。一人ひとりの居室には分かりやすいようお名前や飾りつけをしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームともに中斜里

作成日：令和 2年 2月 28日

市町村受理日：令和 2年 3月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	開設して4年目になるが、入居者様のほとんどが健康面は良好である。これで良いとは思わず、この状態が続くのは、どうしたら良いかを考えている。	御本人様がより良く暮らすために本人、家族様としっかりと話し合いをする。	・しっかりとアセスメントをする。センター方式の「私の出来る事、出来ないことシート」の活用。 ・聞き取れない入居者様においては、表情だったり、しぐさ等、見落とさずケアプランを立てる。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。